

育成期の制限給餌による会津地鶏産卵能力の向上

福島県農業総合センター 畜産研究所養鶏分場

1 部門名

畜産—鶏—畜産繁殖、畜産ほ育・育成

2 担当者

國分洋一・斎藤美緒

要旨

県産銘柄鶏「会津地鶏」を卵用利用する農家が散見されることから、ケージ飼いの場合の産卵性能を調査するとともに、より産卵性を高めるための、育成期における制限給餌法について検討した。なお、飼養は、育成期は群飼ケージ、成鶏期は単飼ケージで実施した。

(1)育成期間を通じて飼料を不断給餌した場合、産卵率(21-64週)55.9%、平均卵重56.3g、飼料要求率は4.03程度に留まった。(表1、図1)

(2)これに対して、7週齢から25~30週齢時まで、不断給餌の鶏の体重の70%になるよう制限給餌を実施することにより、初産日齢は遅れるものの産卵性及び飼料要求率は改善された。(表1、図1)

(3) 制限給餌の実施時期は、7週齢から25週齢まで、25週齢体重2.0kgになるよう飼料を制限することにより、産卵率67.4%、平均卵重60.0gに向上させることができた。また、飼養期間を通じての飼料給与量も不断給餌の83.5%程度に減らすことが可能であった。(表1、図1)

(4)以上から、会津地鶏の卵用利用に際しては、育成期の制限給餌は産卵性を向上させる上で有効と考えられた。

表1 生存率、初産日齢、産卵成績及び飼料要求率

育成期の 飼料給与	生存率	初産日齢	産卵性(21-64週齢、308日間)			飼料要求率
			産卵率	平均卵重	日産卵量	
	%	日	%	g	g	
不断	98.3	130	55.9	56.3	31.5	4.03
7-30制限	100.0	200	63.2	60.7	38.3	3.05
7-25制限	86.0	186	67.4	60.0	40.4	3.25

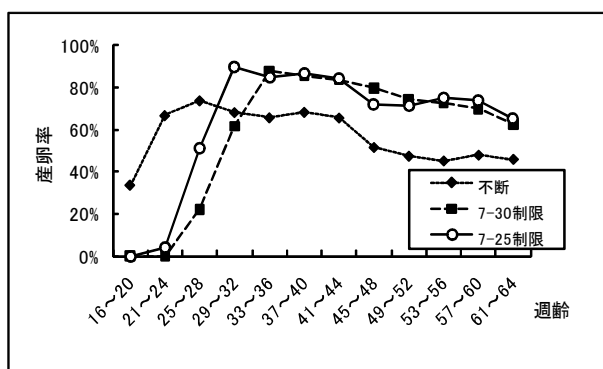


図1 産卵率の推移

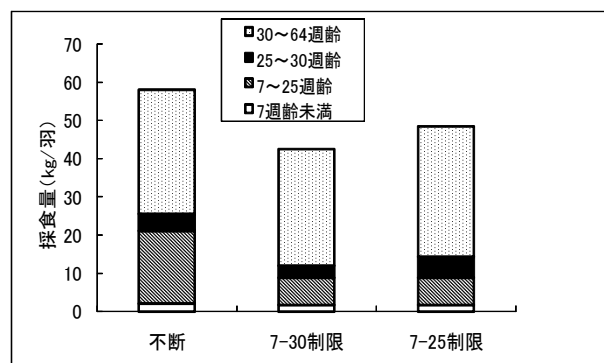


図2 飼料給与量

4 主な参考文献・資料

(1) 平成19年度～22年度センター試験成績概要